

# 「アルメリア」の鮮度保持について

農業試験場暖地園芸センター 園芸部長 花田裕美

## 【要約】

アルメリアの花弁が萎む原因はエチレンだが、エチレン阻害剤の STS が花弁まで吸水されないため効果が低い。そこで、内生エチレンの合成を止める AIB（宿根スターチス用の鮮度保持剤「ピチピチブルファン」）溶液を連続施用すると鑑賞期間は 10 日間に延び、湿式輸送による出荷が可能になると思われる。

## 【背景・ねらい】

アルメリアはスターチス・シヌアータと同じイソマツ科植物で、花色が豊富な丸い花が可愛く切り花本数も多い。加えて、無加温ハウスで据置栽培も可能である。しかし、切り花にすると花弁の萎みが非常に早いことが問題となり切り花としては流通していない。そこで、アルメリアを切り花として利用可能にするため、アルメリアに適した鮮度保持技術を確立する。

## 【成果の内容・特徴】

鮮度保持剤 STS（チオ硫酸銀）、BVB（ベンジルアデニン BA+ジベレリン GA）、ブルボサス（BA+GA+糖）、蒸留水で連続処理を 7 日間行った結果、ブルボサス 100 倍で最も花の状態が良かった。このことから、アルメリアは開花に糖を必要とすることが確認された。また、STS と BVB では、STS で花

弁のしぼみは少なかったことから、花弁の萎みはエチレンが原因と考えられた。

1. STS 処理の効果が小さかったことから、染色液を用いて吸水試験を行った結果、染色液は萼部位で留まり花弁まで到達していないことがわかった。このことから、STS が花弁に届いていないため、花弁のエチレン受容体と結合できないため、花弁が萎むと考えられた。

2.  $\alpha$ -アミノイソ酪酸 (AIB) は STS と異なるエチレン阻害作用があり、宿根スターチス用の鮮度保持剤（ピチピチブルファン：AIB+糖+殺菌剤）に使われている。そこで、ピチピチブルファンで連続処理した結果、10 日目でも花は鑑賞できるようになった。また、個体間差が非常に大きいこともわかった。

3. 以上のことから、アルメリアの鮮度保持には、日持ちの良い個体を選び、ピチピチブルファンを連続処理することで、湿式輸送で市場出荷が可能になると考えられた。

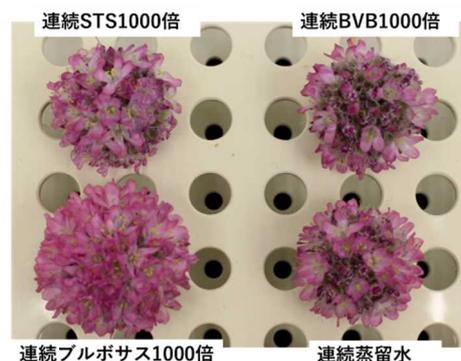


写真1 鮮度保持剤の連続処理  
室温23°C、湿度60%、12時間明期（1000lux）



写真2 染色液吸水試験



写真3 AIBとSTSの鮮度保持効果の比  
左:ピチピチブルファン 右:STS2000倍+GLA  
横列:同一株の切り花 各処理3本